

「マリアのエリサベツ訪問」 ルカ1:39～45

「マリアの賛歌」 ルカ1:46～56

1. はじめに

(1) 受胎告知を受けたマリアのその後の行動

① エリサベツを訪問

② エリサベツと胎内の子の反応

* エリサベツの預言的言葉

* マリアの賛歌 (マグニフィカート。ラテン語訳の最初の言葉)

③ 今回は、2つのセクションを同時に取り上げる。

2. アウトライン

(1) マリアのエリサベツ訪問 (39～45 節)

① 訪問の情景 (39～42a 節)

② エリサベツの預言的言葉 (42b～45 節)

(2) マリアの賛歌 (46～56 節)

① マリア自身が受けた祝福 (46～50 節)

② イスラエルの民が受けた祝福 (51～56 節)

3. メッセージのゴール

(1) イエスとヨハネの対比

(2) 信者の手本としてのマリア

(3) 約束と預言の成就

(4) 逆転の真理

このメッセージは、メシアの本質について学ぼうとするものである。

§6 マリアのエリサベツ訪問 (39～45 節)

I. 訪問の情景 (39～42a 節)

1. マリアの行動

(1) 受胎告知からさほど時間が経たない内に、マリアはエリサベツを訪問した。

① ユダの山地にある町

② 紀元6世紀以降は、この町はエン・カレムと特定されている。

③ナザレからの距離は、約160キロ。徒歩で4日前後かかる。

(2) なぜエリサベツを訪問したのか。

①ナザレを逃れるため？

②妊娠したことを別の地で確認するため？

③エリサベツの助言を受けるため？

④天使から聞いた「しるし」に応答するため？

*マリアは喜んで旅をしたのであろう。

(3) ザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。

①ザカリヤは、まだ耳が聞こえず、口もきけなかった。

2. マリアのあいさつへの応答

(1) 先ず、エリサベツの胎内にいる子が応答した。

①胎内にいる時から、メシアの先駆者としての役割を果たしている。

②すでにマリアの胎内には子が宿っている。

(2) エリサベツは、聖霊に満たされ、大声を上げた。

①エリサベツの胎内にいる子とエリサベツが、メシアを認識した最初の人である。

②聖霊に満たされるという意味

*ペンテコステ以前は、特定の目的のために聖霊の支配(力)を受ける。

*ペンテコステ以降は、信者の内に聖霊が住まわれる。

*満たされるとは、聖霊の支配のことである。

③大声で語るとは、預言的言葉である。

II. エリサベツの預言的言葉(42b~45節)

1. 42節b

「あなたは女の中の祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています」

(1) これは対句法である。

①マリアの賛歌もそうであるが、非常にヘブル的である。

②「女の中の祝福された方」とはヘブル的表現。「非常に祝福されている」。

(2) 「胎の実」とは胎内の子のことである。

- ①胎の実が祝福されているがゆえに、彼女は「女の中の祝福された方」である。
- ②当時は、女性の偉大さは、どのような子を産んだかによって決まった。

2. 43 節

「私の主の母が私のところに来られるとは、何ということでしょう」

- (1) 焦点はマリアではなく、胎内の子に合わせられている。

- ①マリアは、彼女自身の偉大さのゆえではなく、胎内の子のゆえに尊い存在。

- (2) 「私の主の母」

- ①イエスは誕生の前から、「私の主」と呼ばれている。

- ②エリサベツはマリアの胎内に宿っている子を「私の主」と認識した。

- ③その認識が広く認められるようになるのは、使2:36。

「ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです」

3. 44～45 節

「ほんとうに、あなたのあいさつの声が私の耳に入ったとき、私の胎内で子どもが喜んでおどりました。主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう」

- (1) エリサベツの子は、胎児の時からメシアの先駆者としての使命を果たしている。

- ①その子は、喜んで使命を果たしている。「喜んでおどりました」

- ②成人したヨハネの言葉。ヨハ3:29

「花嫁を迎える者は花婿です。そこにおいて、花婿のことばに耳を傾けているその友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。それで、私もその喜びで満たされているのです」

- (2) マリアは、「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人」である。

- ①ザカリヤとの比較。ルカ1:20

「ですから、見なさい。これらのことが起こる日までは、あなたは、ものが言えず、話せなくなります。私のことばを信じなかったからです。私のことばは、その時が来れば実現します」

§7 マリアの賛歌 (46～56 節)

I. マリア自身が受けた祝福 (46～50 節)

1. ハンナの祈りが背景にある (1サム2:1～10)。

「ハンナは祈って言った。『私の心は【主】を誇り、私の角は【主】によって高く上がりま
す。私の口は敵に向かって大きく開きます。私はあなたの救いを喜ぶからです』 (1 節)

(1) 不妊の女であったハンナは、主に願ってサムエルを得た。

①サムエルとは、「神が聞いてくださった」という意味。

②本来は子を宿さない処女が子を宿したことの中に、ハンナとの関連性がある。

2. 46～48 節

「マリヤは言った。『わがたましいは主をあがめ、わが霊は、わが救い主なる神を喜びたた
えます。主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。ほんとうに、これか
ら後、どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう』

(1) 対句法が見られる。

①「わがたましい」も「わが霊」も「私」という意味。

②「主」と「救い主なる神」とは同じ意味。

③旧約聖書の「ヤハウエ」は新約聖書の「キュリオス」である。

(2) マリアが主をたたえている理由

①自分を取るに足りない者であるとの自己認識。

②メシアを胎内に宿したのは、100%神の恵みによる。

③神の恵みを受けた者として、自分は「しあわせ者」である。

3. 49～50 節

「力ある方が、私に大きなことをしてくださいました。その御名は聖く、そのあわれみは、
主を恐れかしこむ者に、代々にわたって及びます」

(1) 「大きなこと」とは、単に処女懐胎のことではない。

①メシア到来の出来事に自分が参加させられていること。

(2) 「その御名は聖く」とは、「そのお方は聖いお方である」という意味。

①これは、道徳的聖さだけでなく、契約に基づく約束に忠実であることを示す。

(3) 詩103:17が背景にある。

「しかし、【主】の恵みは、とこしえから、とこしえまで、主を恐れる者の上にある。

主の義はその子らの子に及び、

①マリアの賛歌は、ヘブル的であり、旧約聖書の影響を受けている。

II. イスラエルの民が受けた祝福 (51～56 節)

1. 51～53 節

「主は、御腕をもって力強いわざをなし、心の思いの高ぶっている者を追い散らし、権力ある者を王位から引き降ろされます。低い者を高く引き上げ、飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせないで追い返されました」

(1) イエスの御業の預言である。

①ヘブル語の未来完了形 (まだ起こっていないが、神の視点からは完了した)。

(2) イエスは、この世に逆転をもたらす。

①心の思いの高ぶっている者、権力ある者、富む者は、辱めを受ける。

②低い者、飢えた者は、祝福を受ける。

③マリアはすでにそれを体験したが、これがイスラエルの民全体の体験となる。

2. 54～55 節

「主はそのあわれみをいつまでも忘れないで、そのしもべイスラエルをお助けになりました。私たちの父祖たち、アブラハムとその子孫に語られたとおりです」

(1) マリアは、イエスの御業を契約の成就と見た。

(2) アブラハムとその子孫への約束

①出2:24

「神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた」

②詩105:8～10

「主は、ご自分の契約をとこしえに覚えておられる。お命じになったみことばは千代にも及ぶ。その契約はアブラハムと結んだもの、イサクへの誓い。主はヤコブのためにそれをおきてとして立て、イスラエルに対する永遠の契約とされた」

3. 56 節

「マリヤは三か月ほどエリサベツと暮らして、家に帰った」

(1) エリサベツの出産を見届けてから帰宅したのであろう。

- ①自らの妊娠を確認する意味もあったか。
- ②安定期に入ってから移動したか。

結論：

1. イエスとヨハネの対比

- (1) キリスト論的認識がある。
- (2) イエスはヨハネよりも偉大である。
 - ①ヨハネはイエスに敬意を表した。
 - ②ヨハ1：8
「彼は光ではなかった。ただ光についてあかしするために来たのである」
- (3) エリサベツは、マリアが祝福された女であることを認めた。
 - ①イエスの偉大さを認めたということ。

2. 信者の手本としてのマリア

- (1) ザカリヤとマリアの対比
- (2) 信仰は、年数ではない。
- (3) マリアは、旧約聖書をよく知っていた。

3. 約束と預言の成就

- (1) マリアの信仰は、神の契約に対する信頼である。
- (2) 旧約聖書と新約聖書の連続性
- (3) 恵みの時代(教会時代)は、ペンテコステの日までは始まらない。
- (4) 福音書の時代は、律法の時代である。

4. 逆転の真理

- (1) イエスによってこの世の価値観が逆転する。
- (2) 高慢な者は低くされ、自らの貧しさを認識する者は高くされる。
 - ①山上の垂訓のことば
 - ②5000人のパンの奇跡
 - ③ルカ19：10
「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです」
 - ④最後の晩餐